

友人のママとセックス 友人が「やりたい」と話す母に男を紹介すると約束して・・・

僕は飲食店でパートとしてフルタイムで働くも、人間関係のストレスなどで体調を崩し数ヶ月休養。

そして満を持してと臨んだ工場の仕事でも過酷さで倒れてしまう。

病院へ行くと、だいぶいろいろなところにガタも来ていた。

人間って幸せになるために生まれてきたんじゃないの？

いつか自分も・・・・とずっと待ち続けていたようなそんな時期もあったけれど、ある種あきらめて生きようとした矢先・・・・でもまた困難は続く。

俺はもうどうでもよくなって・・・・・・・・。

友達のヒロトに電話した。

「・・・・・・・・もしもし？」

俺はヒロトに一度呑みにでもいかないかと誘った。

「・・・・・・・・ああ、元気にやってるけど??」

街の駅前のスナック。小さな店内でジョッキのビールを向かい合わせ夜更けまで語り明かした。

まだ俺はこのヒロトのように、最悪の最悪になった時に会ってくれる友人がいるだけマシなのかもしれない。

少しキャパシティからあふれ出していた自暴自棄の滝の水は、この一夜である程度まで収まった。

だけどヒロトの一言ときたら・・・・・・・・。

「おまえ、女に不自由してんだろ？金ないみたいだし風俗も呼べないじゃん??」

「きゅ、急にどうした！！？」

その後ヒロトが言った言葉に一瞬俺は耳を疑った。

「うちのママが、若い子とやりたいって言ってたんだ」

背徳感丸出しの言葉。ヒロトだってそんな会話ママとしたこ

とはなかったのだと言うが、

テレビドラマでちょっとエッチなシーンがあった時に、

「ヒロト、あなたはそっちの方どうなのよ？」

ヒロトのママのその一言から話がそっちの方向に広がっていき、挙句の果て？というか最終着地地点がその言葉だったとのことだ。

熟女だってやりたいらしいぜ・・・・。

もう閉経も終わっているらしいんだけど。

そう言ってヒロトは少し微笑を浮かべた。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)